

〈特集・労働者協同組合グループ〉

本格化する労働者協同組合の事業活動

——パラマウント製靴の発展も含め——

中 田 宗一郎（中高年雇用・福祉事業団全国連合会 専務理事）

本格化する開発・事業

事業団は、労働者協同組合グループの事業活動が本格化することを心から喜んでいます。

このスタートを、労協活動の新たな段階としてとらえ、パラマウント製靴・タウ技研・つばさ流通・C&Cを主軸とする諸組織との間で培われた信頼関係を基礎として、これまで以上に力を合わせたいなる発展を期したいと考えています。

連合会は、第14回全国総会を、来る5月23～24日長野県松本市に於いて開催します。

この総会は、事業団・労協運動史上、最大級の広がりや深まりの中で迎えることができます。その力の源泉は、団員の自覚と行動力にありました。ICA加盟の実現、高齢者協同組合構想、映画上映運動が多くの人々の共感と期待を高め、全団、全団員の誇りと確信を深めました。

この高まりを踏まえ、労協運動が新しい段階に入ったことを自覚する重要な総会として位置づけています。

いよいよ労働者協同組合の真価を本格的に内外に問う段階にふさわしい実践を通じて、新しい力の結集と中期計画の達成、協同組合間の本格的な提携の中で、地域を変え、社会のさまざまな改革をやりうる力を身につけることを呼びかけます。

そして、議案は、労協グループと国労闘争団など新たな労働者の結集と事業の展開を、私たちの運動の飛躍を予感させるものとして、この発展のために全力を尽くすこと、具体的には、

- ① 連合会にグループの代表を理事としてむかえる
- ② 事業主体となる幹事会と結成準備、財政基盤確立への協力
- ③ パイオニア事業（製靴・洗濯機・福祉機器・メディア出版）での提携・協力

を93年度の重点課題の一つとしています。

労協グループは、昨年末に結成準備会をもって以来、パラマウント・タウ技研・C&C・センター事業団を軸に、労協グループとのかかわりでの事業計画を具体化し、開発の条件を大きく切り開いています。

【パラマウント】自主生産5周年を契機に、将来を展望し、労協グループとして事業・経営をすすめる方向づけ。

【タウ技研】放射能検知器、廃食油リサイクルの石けん製造機に続いて、洗濯機研究会との間で開発されたドラム型洗濯機の試作

【C&C】労協グループの発展にともなうその周辺でのメディア・情報・出版について、労協としての事業化構想の具体化

【センター事業団】第5次1・2・3運動での活動領域の拡大。病体生理研究所との画期的な提携。

【国労闘争団】丸3年を迎え「アルバイト依存」体制から5～10年を展望した闘争体制を、労協と位置づけるところが増え（北海道、音威子府→函館、留萌、稚内、深川、旭川）自治体や地域の行動を開始

このように、労協グループの本格化は、労働者協同組合として、生産・サービス・ハイテク・メディア出版、運輸交通、販売分野での人と社会が必要とする仕事の開発、事業化が始まることを示しています。

パラマウント製靴の労協への転化

とりわけ、パラマウント製靴の労働者協同組合への転化、発展は、労協グループのスタートへの期待に応える中心的役割りを担うもので、グループ構成組織が全力をあげて成功させる最重点のとりくみです。

そのためには、連合会・センター事業団との提

携で、しっかりと足元を固めると同時に、労働者協同組合としての崇高な理念、目的を共有すること、タウ技研のすぐれたノウハウによる効率的な経営システムづくりの協力、メディア出版による労協パラマウントの力強い打ち出し（C&C）が必要であり、責務でもあります。

パラマウント製靴の労協へ転化・発展によって、日本ではじめての労働者協同組合による「生産」「販売」活動がはじまるのです。

労協の「生産」「販売」活動はどのように目標化され、実践されるのかが問われます。

このための、パラマウントと、センター事業団の経営スタッフによる提携準備作業がスタートしました。

私も、かつて製紙工場で、工場日報の集約、原価計算、管理会議への原価分析の報告書づくりなどの経験も生かせればとその一員として、パラマウントの生産・販売・経理スタッフとの遠慮のないやりとりに加わっていますが、改めて、労働者は、どうすれば生産があがるか、ロスを少なくできるか、働きやすい現場にできるか、さらに、新しい機械の導入と体制の検討についても充分やりうる能力をもっていること、労協は、この労働者が本来もっている能力を発揮し、働く喜びとして日々実践できる道を開くことになることを確かめ合うことができ、古い経験が、この様なかたちで生かされる喜びをかみしめています。

これからは、労働者が主人公として、効率的な部門と標準を設定し、生産・販売実績の把握、標準との差異分析、設備・体制の検討をすることになるでしょう。

労協としての販売活動はどういうことかも検討されています。

年間3万足の販売が、職域、地域での展示即売、生協、国労闘争団の3分野に展開しています。

これに加えて、労協グループとしての販売として位置づけられることで対象領域は大きく広がります。

これまでの生産と販売の能力差を理由とする責任のあいまいさから、一転し医療・福祉関連、高

齢者、若者、女性向け、注文品などにどう応えるかが課題となり、ニーズに応える販売と生産の関係をどうつくるかということになります。

石井代表に請われて工場長になって6ヶ月の中島さんは年齢60歳、靴づくり40年のベテランです。「夢があっていいですね。この設備でも、職人と若手をふやせば、相当のことはやれる」と言い切ってくれました。

パラマウント製靴は、東京の東部・足立千住大橋に近いところにあります。

歴史は、ここを、生産労働者協同組合の発祥の地として記録することになるのだと思います。

日本の労働運動は、70年代前後、無数の争議を経験し、その闘いの中から、少なくない自主生産企業を生みます。しかし、いつの間にか普通の企業へ変質してしまうことが多いなかで、パラマウントは、自からを労働者協同組合に転化・発展させる道を選ぶことで、日本ではじめての生産労協となることになります。

この選択に当たって、石井代表が果たした大きな役割りがあります。

自主生産での体験を通じての労協への強い共感、労協グループ代表世話人として連帯と運動推進での誠実さは、連合会・センター事業団で不動の信頼を確立しています。それは、パラの仲間への愛着と信頼を基礎にねばり強い、労協化の提起と合意、新たな活力の発揮を背景としています。

労協グループの運動を振りかえり、今日の事業開始を考えると、その根底に、運動へのかかわりと、人間関係での「信頼」が根太く培われてきたことを知るのです。

労協では、資本が労働を雇うのではなく、労働者が資本を使う、人と人の結合体と定義づけられますが、労協グループは、いま、これを現実のかたちとして、東京の一隅に根付かせようとしています。

それは、きっと、信頼と誠実さを基礎とする新しい提携・協力関係も生み出すものとなるでしょう。